

地球上の「誰一人取り残さない」世界の実現を誓うSDGs

SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」の略称で、2030年までに取り組むべき、経済・社会・環境をめぐり世界共通の目標のことです。

21世紀の世界規模の社会課題を乗り越え、地球を永続させるため、「誰一人取り残さない」ことを理念とし、貧困や飢餓、ジェンダー、エネルギー、働きがいと経済成長、気候変動への対策など、17の目標と、各目標を具体的に示した169のターゲットが掲げられています。

日本においては、SDGs推進本部が政府内に設置され、実施指針やアクションプランの策定などを行っています。

みやま市でもSDGs達成のため市民と地域と行政が丸となり、持続可能なまちづくりを目指してさまざまな取り組みを行っています。

世界を変えるための17の目標と、達成に向けた取り組み。



持続可能な世界を実現するための17の目標



新たな将来像を実現するための7つの基本方針

魅力あふれる 住みやすい まちづくり

(都市基盤、移住・定住)

●関連するSDGsの目標



●施策項目

- 1 計画的な土地利用の推進
- 2 利便性の高い地域交通体系の整備
- 3 良好な住宅環境の整備
- 4 心やすらぐ公園・緑地の整備
- 5 上下水道の整備
- 6 高度情報通信基盤の活用
- 7 移住・定住の促進

便利で快適な、誰もが住みたくする魅力あふれるまちづくりと、そのPRを推進します。合理的かつ効果的な土地利用や、広域道路網の計画的な整備、安全で人に優しい生活道路の整備、公共交通機関の利便性向上などを推進し、市民や来訪者の交通手段の確保を図るほか、住宅環境や公園・緑地、上下水道を整備して、安心して暮らせる生活環境の確保に取り組めます。また、高度情報通信基盤を活用した産業振興や利便性の高い行政システムの整備を図り、本市の魅力積極的にPRすることで、市外からの転入や市民の転出抑制を促し、移住・定住を推進します。

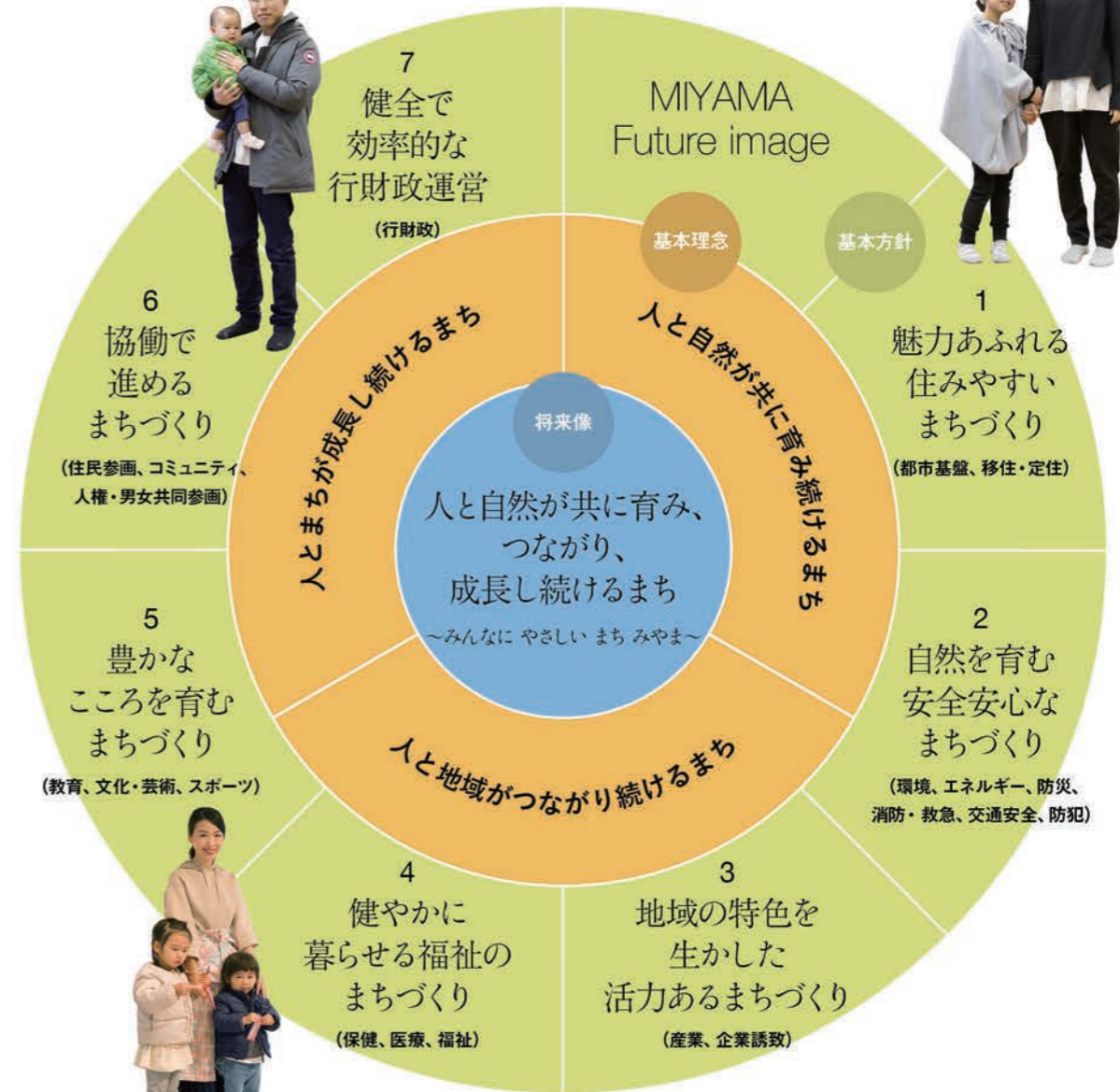


①地域ごとの特性や現状を踏まえ、市を4つのエリア（市街地・田園居住・山林保全・新産業ゾーン）に区分し、計画的な土地利用を推進していきます。②公園の整備の一環として、県営筑後広域公園では平成28年、本郷地区にプールを整備しました。③誰でも乗ることができるコミュニティバスが市内を運行しています。ルートやバス停、タイヤ改正など、さまざまな観点から検討を行い、利便性の向上に努めます。

みやまのミライ

第2次みやま市総合計画

「住んでみたい」「住み続けたい」と思われるような「選ばれるまち」を目指し、市民と行政とが共に手を携え、みやまの未来を作っていきます。



新しい時代を切り開いていくみやま市の将来像

みやま市が誕生して以来、「人・水・緑が光り輝き夢ふくらむまち」を目指して、さまざまな施策を市民と共に積極的に推進し、豊かなまちづくりを行ってきました。

これまでに築かれてきたまちの魅力を受け継ぎつつ、更なる活力を生み出していくため、将来像を新たに「人と自然が共に育み、つながり、成長し続けるまち」と定めました。

実現するための基本理念は三つ。一つ目は「人と自然が共に育み続けるまち」。主役である人と、豊かな自然とが共に育まれていくことで、将来の世代の暮らしが輝くような、持続可能なまちづくりを行います。二つ目は「人と地域がつながり続けるまち」。先人が培ってきた歴史や素晴らしい伝統文化、そして人と人、人と地域とのつながりを大切にすることで、子供から高齢者まで、みんなが安らげる笑顔あふれるまちにします。三つ目は「人とまちが成長し続けるまち」。豊かな人材の育成や産業の発展に向け、市が丸となって新たな挑戦を行っていくことで、成長し続けるまちを目指します。